ピープルズ・プラン21世紀

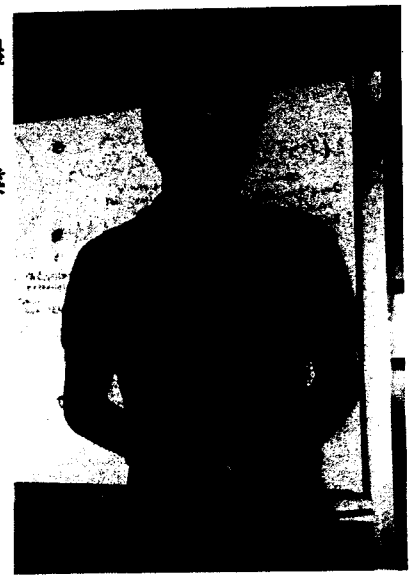
1989年夏・国際民衆会議行事

海外参加者紹介

農民会議 (7/29-8/2、山形、 8/3-8/7、新潟、 8/8-8/12、岩手)

≪フィリピン≫

ニロ・オラシォン (Nilo Oracion) 男性、31才



KMP (KILUSANG MAGUBUBUKID NG PILIPINAS フィリピン農民運動) 全国評議委員、同 全国執行委員

＜略歴＞

1974 南コタバト (ミンダナオ) コロナダルアカデミー卒業
1974-1987 スリガオ・デル・スールで農業
1982-1983 キリスト教農民団体BCC-POで組織活動
1983-1985 南コタバト農民同盟の監査役
1987 上記KMP全国評議委員・全国執行委員に

＜専門または関心＞

1．農業・農民に対する外国の支配とそれに対する闘い
2．農地改革実施における農民自身のイニシャチブ
3．他の国々の農民との連携

ユージン・ロペス (Eugene Lopez) 男性、31才

KMP

＜略歴＞

1980 フィリピン大学ソーシャルワーク・地域開発学部卒業
1980-1982 フィリピン大学科学技術局研究助手
1982-1983 カビテ市にてコミュニティーの組織活動
1983-1984 コミュニティー拡張と発展のための研究所職員
1984-1985 農民援助評議会プログラム・コーディネター
1985-1987 PPI (PHILIPPINE PEASANT INSTITUTE フィリピン農民研究所) ラジオ・プログラム担当
1986-1988 KMP部門主任

＜著書・論文＞

「二人の農民が始めた土地改革のケース・スタディ」(1989)
「民衆の自立を通じた発展」 (1989)

＜専門または関心＞

1．農業・農民に対する外国の支配とそれに対する闘い
2．農地改革実施における農民自身のイニシャチブ
3．他の国々の農民との連携

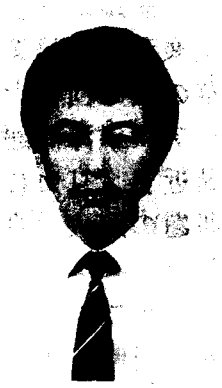
エストレリタ・P・マリアーノ (Estrelita P.Mariano) 女性 (山形のみ参加)

AMIHAN（農民女性組織）

≪台湾≫

○ 黄文源 (Huang Wen-Yuan)　男性、35才

新竹県農民権益促進会書記長　（山形・新潟のみ参加）



＜略歴＞

1980-1989 アジア・セメント社勤務
1983　台北技術専門学校夜学に通う
1986　アジア・セメント労働組合執行委員
1989　新竹県農民権益促進会書記長

＜専門あるいは主な関心＞

１．台湾のあらゆる社会運動　２．農業問題と経済　３．労働者、抑圧された者の権利

黄志翔 (Huang Chih-Hsiang)　男性、29才

台湾農民連盟広報部長

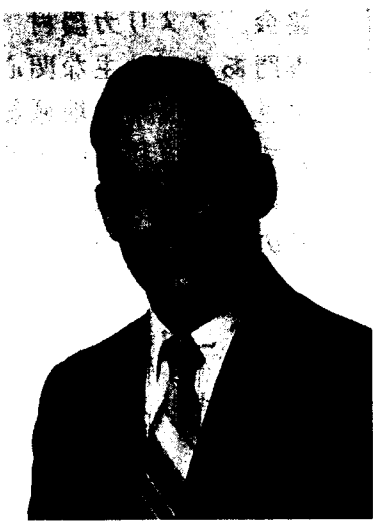
＜略歴＞

中国文化大学演劇学部卒業、テレビ・ディレクター助手、『南』誌編集長、台湾社会運動研究所研究員、台湾農民連盟広報部長

＜専門あるいは主な関心＞

１．台湾における農業資源・農業政策、農民の状態　２．学生運動、環境運動など

≪米国≫



○ ケアリー・スミス (Cary Smith)　男性、49才

ヴァーモント農村運動 (RURAL VERMONT)

＜略歴＞

49年の人生の41年間を家族経営の酪農農場で過ごしてきた。

家族の協力を得て、大学　を卒業し、１０年間教師および学校　経営に携わった。地域で政治活動を行い、都市行　政委員を二　期勤め、数年に渡って都市計画委員をつとめている。

現在、全米ホルスタイン協会（酪農家の組織で会員数47,000人）理事長。

＜専門あるいは主な関心＞

１．農村計画　２．消費者と農民の連合　３．適性農業技術　４．農業に基礎をおいた政治活動の組織化

＜ヴァーモント農村運動＞は農民と農村住民の草の根の組織化を行い、農民と消費者の間の連携を築くために運動する。州および全米のレベルで家族経営農業を推進する政策

を支持する。同時に家族経営酪農家の全国ネットワークを組織するとともに草の根の農民の国際交流に参加。

○ イサオ・フジモト 男性、56才

カリフォルニア大学デービス校応用行動科学部

カリフォルニア農村研究所（CALIFORNIA INSTITUTE FOR RURAL STUDIES）

農薬乱用、農業労働、農地管理などの問題　に関するアクション・リサーチを行なう草の根の団体

アジア太平洋問題委員会（ASIA PACIFIC CONCERNS COMMITTEE）

最近アメリカに移住してきたアジア系の人びとの差別、正義、機会均等などに関わる問題の解決、自立を目指す。

＜略歴＞

1933年にワシントン州ワパトにあるヤキマのインディアン居留地で生まれた日系アメリカ人。当時、家族がそこで農業を営んでいた。両親は和歌山県出身。第二次大戦中、他の日系アメリカ人と一緒にハート・マウンテン・ワイオミングとチュール・レイク・カリフォルニアで三年半にわたって、拘留された。サンタ・クララ渓谷で５エーカーの土地にイチゴを栽培する家族経営農家の１３人の子供の長男だった。この地方は今ではシリコン・バレーとして良く知られ、ハイテク産業が農民を追い出してしまった。カリフォルニア大学デービス校で、２０年間コミュニティー発展の教授をしてきた。全国的なレベルでも、地域でも、多くのオールタナティブ運動に関わってきた。全国的なレベルという意味では適性技術ナショナル・センターの副理事長をつとめ、地域では、私の家はデービスの農民マーケット、有機農業協同組合、国際果樹研究所、オールタナティブ資源センターなどのプログラムを始めた諸組織の事務所になっている。多くの組織に関わってきたがいずれも、正義と社会的に責任をもった人間および自然資源の活用を目指すものである。例えば、アメリカン・フレンズ・サービス・コミティー、国際自給農業協会、アメリカ農村（RURAL AMERICA)など。

＜専門あるいは主な関心＞

全世界の民衆と地域組織、コミュニティーが力をもち、社会とエコロジーの調和を考慮せずに経済利益のみを一面的に強調する貪欲で、無責任な破壊勢力に挑戦すること。とくに農業と地域の生活の質、村の活性化との関係について、米国およびカリフォルニアでの経験に基づいて地域の発展と連合形成について語りあいたい。

○ ケン・ミーター (Ken Meter) 男性

ジャーナリスト・作家・教師、農民組織のコンサルタント

＜略歴＞

１０年間農業問題、とくに草の根の農民運動について書いてきた。ミネソタの１農村の農民から見た農業危機について語る「緑の島（GREEN ISLE）」という著書がある。農民運動の聞き書き、ロイター通信の特派員などをしてきた。1986年にフィリピンへの訪問団を組織した。フィリピン農民支援委員会の委員長。

＜専門あるいは主な関心＞

米の貿易自由化問題が日本及びアジアの農民に及ぼす影響。計画と政策決定の分権化、

健康な農業。従属、歴史、都市と農村の相互関係のオールタナティブ。連帯運動、フィリピン・日本の連帯運動。

≪オランダ≫

○ アリー・ヴァン・デン・ブラント (Arie Van Den Brand)　男性

カトリック農民組合 (CATHOLIC FARMERS'UNION) ／オランダ農民組合

集団行動や個々人へのサービスを通じて家族経営農業を守るための組合。

＜略歴＞

小農民の息子で、WAGENINGEN農業大学を卒業 (1968-76)。左翼学生運動グループのメンバーであったと同時に農民とともに農民のための調査、演劇ワークショップも行なう。村人学校 (FOLKHIGHSHOOL)で教鞭をとり、地域、全国、国際農民ワークショップ(1976-88) を行なう。オランダ農民組合の職員(1988-)、オランダ農村青年交流協会理事(1980-)。農業環境センター(1987-)。米国に６ヵ月間滞在。草の根の組織化と合わせて、マーク・リッチーらとともに国際ネットワークの形成のために活動。オランダ社会党農業委員会委員。

＜専門あるいは主な関心＞

農民・農村女性・農村青年の教育。欧州共同体の農業政策。農民組合の発展。家族経営農業の分析。農村女性の役割、参加。近代農業における自給的農業の可能性、農業と環境問題。

○ ジェラルド・ヴィーファー (Gerard Wieffer)　男性、38才

住民学校 (FOLKHIGHSHOOL)

FOLKHIGHSHOOL は1920年代にオランダの中でも貧しい地方である北部で始まった。今では全国２５箇所にあって、成人教育のための住民センターになっている。

＜略歴＞

カトリックの労働者階級の出身。セミナリー（教区学校）卒業後、社会研究を経て失業青年のための活動を開始。５年後にFOLKHIGHSCHOOLでの仕事を始めた。現在は農村の人びとを対象とした教育を行なっている。その他、演劇、音楽にも関心を持っている。

≪インド≫

○ マシュー・コシー (Mathew Koshy)　男性

CSI ケララ中部教区青年運動 (CSI MADHYA KERALA YOUTH MOVEMENT)

ラディカルなキリスト教青年雑誌 (YUVALOKAM)の編集長

＜略歴＞

ケララ州マヴェリカラのビショップ・ムーア学校で化学を教えている。抑圧された人びとの解放運動に参加。農業者としては、プランテーン（AVトーマス社の組織培養のプラ

ンテーン）、ココナッツ、米を栽培。小農民の農村に住んでいるので、農民が抱えている問題については良く知っている。

＜専門あるいは主な関心＞

抑圧された人びとの正義を求める闘い。
ジャーナリズム

≪タイ≫

○ バムルン・ブンパニャ (Bamrung Bunpanya)　男性、43才

＜略歴＞

タイ東北部のスリン出身
1968-1976 タイ農村再建運動のフィールド活動
1976-1979 タイ東部の CHASCENGEAO農民連盟
1979-1982 ASIAN CULTURAL FORUM ON DEVELOPMENT(ACFOD)のコーディネーター補佐
1982-　ACFOD 執行委員

○ バントン・オンダム (Banthorn Ondam)　男性

＜略歴＞

農業経済学者。長年にわたって草の根の農民の組織化にとりくむ。タマサート大教授を経て、ＣＣＡ農民プログラムで働き、現在はコーンケーン県を拠点に自立農業の実践に取組む。

トンプン・ハマジュム (Tongpun Hamajum)　女性、30才

コンケーン（タイ東北部）出身の農民

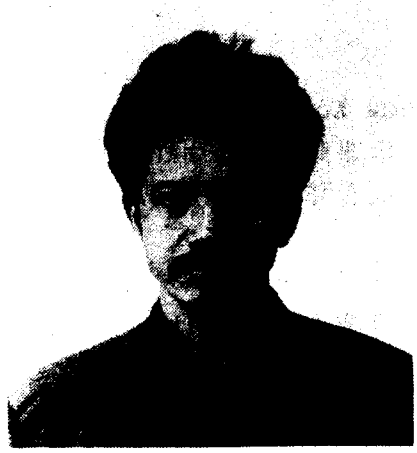
ナトゥルディー・ナコーンヴァチャ (Nathrudee Nakornvacha)　女性、通訳

○ カヨタ・バムルン (Kayotha Bamrung)　男性、アジア学院（栃木県）に留学中

タイでは「民衆の参加のための組織」（PEOPLE'S ORGANIZATION FOR PARTICIPATION)に所属

＜略歴＞

1973-78 労働組合で活動
1978-　上記ＰＯＰで活動



≪韓国≫

農民代表２名（参加予定）

世界先住民族会議 (8/7-8/14、北海道)

≪台湾≫

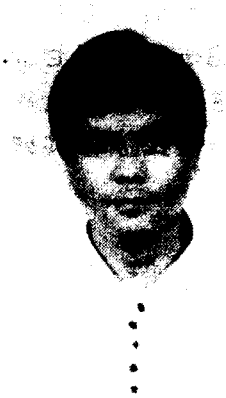
リゥ・ウェン・シュン (Liu Wen-hsiung, 劉文雄)　男性

Alliance of Taiwan Aborigines
台湾原住民族権利促進会会長
＜略歴＞
1960年アミ民族、原住民労働者福音センター事務局次長、原住民青年雑誌編集長
台湾原住民族権利促進会会長、原住民土地回復連盟代表

ラヤ (原住民名)、ヒー・フィ・チェン (陳秀恵)　女性

Aboriginal Workers Evangelism Center (原住民労働者福音センター)
台湾長老教会
＜略歴＞
ユーシャン神学校卒業、アミ民族 (台湾の原住民族10のうち最大)
1983年から原住民族の買売春問題に関わると同時に都市の原住民族との接触をとってきている。
＜専門あるいは主な関心＞
原住民の女性、都市での労働の問題

モ・ナ・ネン (原住民名、Mo Na-neng、莫那能)、チェン・シュン・ワン (Cheng Shun-wang、曾舜旺)　男性



台湾原住民族権利促進会
＜略歴＞
1956年生まれ　パイワン (Pai-wan)民族
中学卒　荷役、マッサージ師など生活のため種々の仕事につく (目が不自由)
1987年　台湾原住民族権利促進会広報委員会代表
1989年　同会運営委員
＜主な関心＞
台湾の階級両極分解、台湾及び全世界の抑圧された民族の問題について

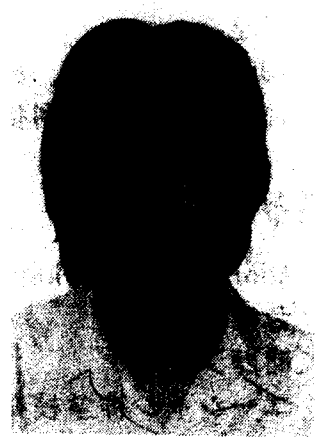
カオロ (原住民名、Kaolo、美露)、チェン・メイ・チュー (Chen Mei-chu, 陳美珠)

女性、チーメイ教会
＜略歴＞

ジャデ山（Jade-mountain)技術大学卒、都市の原住民問題に取り組む
原住民労働者福音センター助手。その他、売春問題、土地の権利回復運動に関わる。
＜専門あるいは主な関心＞
台湾の民族問題、都市（とくに台北市）の原住民の生活（社会適合）
法律扶助、教育問題について

≪フィリピン≫

ヘルミニア・ミニー・M・デガワン(Herminia Minnie M. Degawan) 女性



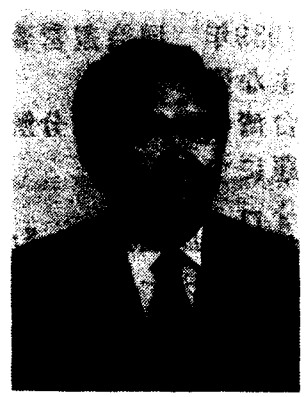
Cordillera People's Alliance（ＣＰＡ、コルディレラ人民連合）
＜略歴＞
25歳、フィリピン北部ルソン。コルディレラ地方のマウンテン・プロビンス出身、サガダ民族(Sagada)。ＣＰＡで１年活動。本部（バギオ市）へくる前はマニラ支部に。学生の組織化。関心の中心は先住民族の権利、基地と労働者。現在ＣＰＡ国際連帯委員会。

エディー・D・ダギタン(Eddie D. Daguitan) 男性

Montanosa Research and Development Center （モンタノサ調査開発センター）
＜略歴＞
83～87 モンタノサ調査開発センターで農業プロジェクトの企画コーディネーター担当
88～ 同センター及びコルディレラ開発プログラムセンターの顧問
＜主な関心＞
先住民族の共同体の社会経済的発展

≪東チモール≫

アビリオ・アラウジョ(Abilio Araujo) 在ポルトガル、男性



東チモール独立革命戦線（Fretilin）海外代表部代表。リスボン在住。
＜略歴＞
インドネシアの侵略・軍事占領に抗する東チモール人の闘いへの支援を訴えて、世界中を回る。「ラメラオ山」など独立運動の象徴となる歌を数多く作曲。東チモールの文化や歴史にも造詣が深い。

≪カナダ≫

エド・バーンスティック(Ed Burnstick) 男性

International Indian Treaty Council（ＩＩＴＣ、国際インディアン条約会議）

＜略歴＞

ＩＩＴＣ理事

1968年よりネィティブアメリカンとして活動

1974年より国連代表

＜専門あるいは主な関心＞

条約および土地問題、環境問題、健康問題

ジュリオ・トレシエラ (Julio Tresierra)

世界先住民評議会（ＷＣＩＰ）

グロリア・クランマー・ウェブスター(Gloria Cranmer Webster) 女性

U'mista Cultural Centre （ウミスタ文化センター）館長

＜略歴＞

Kwakwaka'wakw 民族（文化人類学者は“Kwakiutl”という）

Kwakwaka'wakw のことばを自由に話すことができる

＜専門あるいは主な関心＞

ウミスタ文化センターは1974年に設立。先住民族の文化伝統を保存し、多くの市民にその関心を呼び掛けている。現在はKwakwaka'wakw の歴史を紹介した映画制作に取り組んでおり、さらに二艘のカヌーを製作。広く各地で展示会を行なう予定。

≪アオテアロア（ニュージーランド）≫

ロペティ・セニトゥリ(Lopeti Senituli) 男性 34歳

Nuclear Free and Independent Pacific/ Pacific Concerns Resource Center（ＮＦＩＰ／ＰＣＲＣ）

（非核独立太平洋運動／太平洋問題資料センター事務局長）

＜略歴＞

トンガに生まれる。大学、高校教員を経て、80～87年ＮＦＩＰ運営委員、88年より事務局長

＜主な関心＞

先住民族の闘争、核のない環境、太平洋の独立運動

フィロメーナ・ワハロア(Philomena Waharoa)　女性

Pacific People's Anti-Nuclear Action Committee（太平洋反核行動委員会）
ＮＦＩＰ／ＰＣＲＣ

＜主な関心＞
非核独立太平洋をめざす、マオリの民族自決権、主権、健康問題

≪オーストラリア≫

キャシー・クム・シング(Kathy Kum-sing)　女性

Nuclear Free and Independent Pacific（非核独立太平洋運動）

＜略歴＞
26歳、アボリジニー、子ども１人、ＮＦＩＰ／ＰＣＲＣの運営委員。アボリジニーのさまざまな運動に関わる。ラ・ペロウス(La Perouse)地区コミュニティー・ワーカー、『Street wise comics』誌にアボリジニーの記者として勤務。アボリジニー問題に関わる環境団体、政治団体、地域運動のコンサルタント。

モニカ・モーガン(Monica Morgan)　女性

Yorta Yorta Tribal Council（ヨータヨータ部族委員会）

＜略歴＞
Koori （クーリ）民族の女性。子ども３人
現在、モイラ(Moirah)湖、モイラ森林の土地所有権問題に関わる。この地域は政府の管轄の下、森林伐採、牧草刈りが急ピッチで進められている。先住民族の神聖な遺跡、水脈、環境、土地の主権を獲得するために闘う。

＜主な関心＞
先住民族の問題は土地問題と切り離せない。主権、生存権、精神(spirituarity)を獲得すること。経済的自立。
教育問題。

≪パプア・ニューギニア≫

マーティン・エドナ(Martin Edna)　男性

Melanesian Solidarity （メラネシアの団結）、Operassi Papua merdeka（ＯＰＭ、自由パプア運動）

＜主な関心＞

環境問題、独立と主権、非核独立の太平洋をめざす

≪タヒチ≫

タビ・カリオン・パイ(Tavi Karion Pai)　男性

Tavini Huiraatira (Polynesian Liberation Front、ポリネシア解放戦線)

フランスの核実験の中止を求め、フランスからの独立を要求

≪カナーク≫

プジャプジャネ・アルフォンス(Pujapujane Alphonse)　男性

ＵＳＴＫＥ(Trade Union for Kanak and Exploited Workers)

カナークおよび抑圧された労働者のための労働組合

ＵＳＴＫＥはフランス植民地時代に抵抗するカナーク抵抗運動の前線になっている。

≪グアテマラ≫

ペトローナ・ライネス(Petrona Laynez)　女性

Comite de Unidad Campesina, Guatemala（ＣＵＣ、グアテマラ農民団結委員会）

＜略歴＞

1954年生まれ、キチェ(Quiche)族、グアテマラ農民団結委員会専従

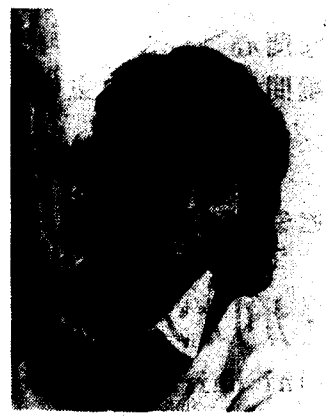
77年より意識化運動のオルガナイザーとして働く

＜主な関心＞

先住民の農民運動

グアテマラ農民団結委員会は1978年農業労働者の要求に応えて、弾圧に抵抗し、人権とマヤの文化的価値を守り、土地を奪いかえすために、先住民族と貧しいラティーノの運動体として発足した。ＵＡＳＰ（労組・民衆運動）、ＣＩＴＩ(Consejo Internacional De Los Tratados Indios、インディオ協定国際協議会）加盟

≪ブラジル≫



アユトン・クレナク (Ailton Krenack)

ＵＮＩ（Uniao das Nacoes Indigenas、先住民連合）

〈略歴〉

1985年よりＵＮＩ全国コーディネーター

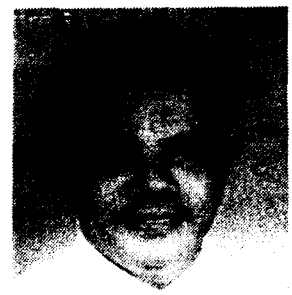
〈主な関心〉

先住民と自然資源。

パウロ・シパッセ (Paulo Sipasse)

ＵＮＩ

≪インド≫



イヴァン・ジョセフ(Fr. Ivan Joseph)　男性

Caritas India （インド・カリタス）

＜略歴＞

1940年生まれ　ケララ州出身

1961年　ヴァラナシ(Valanasi)教区

1967年　司祭

1984年～ Animation & Rural Development（農村の活性化と発展）代表、80ちかい被差別民衆の組織化、18年間、現場のオルガナイザーの経験

1988年　インド・カリタス副代表

≪ベラウ≫

ローマン・ベドール(Roman Bedor)　男性

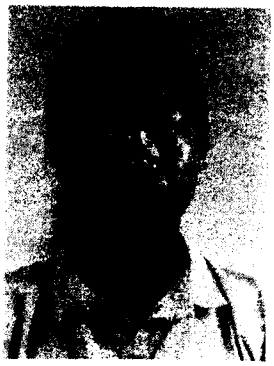
＜略歴＞

非核独立太平洋運動（ＮＦＩＰ）運営委員、ベラウ憲法起草委員会委員、弁護士

＜主な関心＞

非核独立太平洋をめざす、ベラウ非核憲法の保持

《マレーシア》



ルシア・トバ (Lusiah Tobah)　女性　21歳

村落開発委員会事務局長

〈略歴〉

マレーシア・サバ州出身

ドゥスン民族(Dusun) 出身、農民

森林伐採反対などさまざまな活動に参加

教会青年部のリーダー

〈主な関心〉

先住民族の問題全般。とくに文化と歴史。

ジャニー・ラシムバン(Jannie Lasimbang)　女性、24歳、通訳

〈略歴〉

カダザン民族。サバクリスチャン運動に関わるとともにＡＬＩＲＡＮ（アリラン、マレーシア語で潮流の意）、サバ女性行動資料グループ(Sabah Women's Action-Resource Group) などで活躍。

《ソヴィエト》

ツィクリック・スタニスラワ・パブロブナ (Tsikrik.S.P)　女性

サハリン執行委少数民族課長

ナチョトキナ・アントニナ・ヤコブレブナ(Nachetkina.A.Y)

オハ市執行委員主任

沖縄会議

《フィリピン》

ジミー・メンドゥーサ(Jimmy Mendoza) 男性
フィリピンのクラーク米軍基地周辺のアンヘレス地区で反基地市民運動をマルコス時代より組織してきた。

《スリランカ》

ネルン・グラセケラ(Nelun Gunasekera)
（女性フォーラム参照）

＜以下の１１名は先住民会議を参照＞

《アオテアロア（ニュージーランド）》

ロペティ・セニトゥリ(Lopeto Senituli) 男性

フィロメーナ・ワハロア(Philomena Waharoa) 女性

《カナーク》

プジャプジャネ・アルフォンス(Pujapujane Alphonse)　男性

《ベラウ》

ローマン・ベドール (Roman Bedor) 男性

《タヒチ》

タビ・カリオン・パイ(Tavi Karion Pai) 男性

《パプア・ニューギニア》

マーティン・エドナ(Martin Edna) 男性

《オーストラリア》

キャシー・クム・シング(Kathy Kum-sing) 女性

モニカ・モーガン(Monica Morgan) 女性

《カナダ》

エド・バーンティック(Ed Burnstick) 男性

グロリア・クランマー・ウェブスター(Gloria Crammer Webster)女性

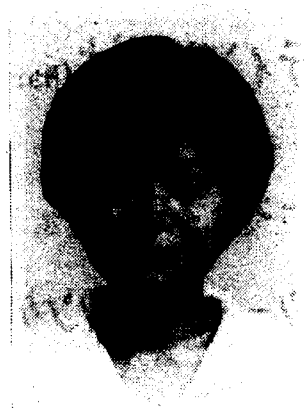
（インドから１人）

《台湾》

モ・ナ・ネン（原住民名、Mo Na-neng、莫那能）、チェン・シュン・ワン（曽舜旺）男性

女性会議 (8/11-8/15 、横浜)

《台湾》



リウ・ファン・ピン (Liu Fang-ping)

労働者権利協会。女性労働者の権利について関心がある。

リー・ユーアン・チェン (Lee Yuan-chen、李元貞)

啓発協会

〈略歴〉

タムカン大学、現代中国文学と古典演劇の助教授。台湾の女性運動の指導者、『Awakening 』の機関誌を通して女性の権利や福祉の向上に努める。現在、啓発協会の会長。詩や小説の執筆をする。

ジェーン・スー (Jane Sue)

長老派教会

ラヤ (原住民名)、ヒュー・フィ・チェン (陳秀恵)

(先住民会議参照)

《香港》

ロー・チェン・クイ (Loh Cheng Kooi)

アジア女子労働者委員会

〈略歴〉

アジアレベルで女性問題および女子労働者の問題について関わっている。

〈主な関心〉

女子労働者問題。

イボンヌ・ダーリン (Yvonne Dahlin)

アジア女性のための文化と神学の資料センター

シュム・ユンシャン (Shum Yun Shan)

アジア女性のための文化と神学の資料センター、学生キリスト教運動

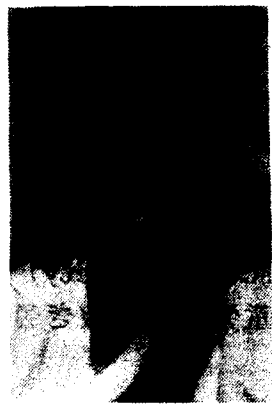
〈略歴〉

香港、中国大学哲学科。香港の学生キリスト教運動に関わる。同運動は世界キリスト教協議会の一部でアジア太平洋地区の国内外の社会・政治・経済・文化問題に関心がある。

《韓国》

チョン・イン・スク (Jeoun In-suk)

その他女性運動から数名参加予定。



《タイ》

タナラディ・タジーン (Thanaradee Thajeen)

女性の友 (FOW、Friends of Woman)

「女性の友」は困難な状況にある女性のための組織。暴行を受けた人、家庭内暴力、女性労働者の健康資金、またアジア諸国で働く女性を支える運動をしている。なお他の活動として、会誌の編集発行をしている。

〈主な関心〉

アジア女性の正義・平和・平等の実現のための連帯。

ナイヤナ・スパプン (Naiyana Supapung)

FOW

〈略歴〉

弁護士、ＦＯＷの女性人権保護センター主事。上記タジーン氏と同じ活動の外、法律を男女平等に変えることに努力している。

アマラ・ポンサピッチ (Amara Pongsapich)

女性学研究プログラム

〈略歴〉

チュラロンコーン大学社会研究所所長。女性問題の専門家。特に人権と平等問題。

マリニー・ウォンパンニッチ (Malinee Wongphanich)

マヒドン大学、公衆衛生学部

〈略歴〉

マヒドン大学の公衆衛生学部のスタッフ。特に女性の職業病や安全について、また発展途上国における新しい技術開発や

女性の雇用問題について研究している。タイにおける少ない女性医師として、また自分自身働く者としての側に立って、労働条件の改善のためにつくす。日本で女性労働と健康について研究した経験がある。タイの二つの労働委員会の非公式の技術コンサルタントでもある。この委員会は女子労働者の健康と安全についての研究及び指導をしている。

バンジョン・シリ (Banjong Sili)

ＡＣＦＯＤ（開発のためのアジア文化フォーラム）

《マレーシア》

メリー・チン (Mary Chin)

女性開発コレクティブ

〈略歴〉

ＷＤＣの職員で草の根レベルの女性に対する必要な資料を集めている。女性行動会（Women's Action Society）にも属していて女性に対する暴力や女性の健康問題に関わる。また児童労働、出稼ぎ労働や低賃金労働者問題にも関わっている。

ルホン・ディン (Luhong Ding)　女性　40歳

女性の社会のためのサラワク女性（Sarawak Women for Women Society,　ＳＷＷＳ）

〈略歴〉

看護婦。地域の保健婦のチーフをしている。サラワクで唯一のフェミニスト運動であるＳＷＷＳ及びサラワク州女性行動委員会ナショナル・ポリシーの事務局。

タン・スウィー・エン (Tan Swee Eng)

女性の社会のためのサラワク女性（ＳＷＷＳ）

《英国》

アイリス・ロッシング (Iris Rossing)

《シンガポール》

ライ・アーエン (Lai Ah-Eng)

〈略歴〉

シンガポールで倫理問題を研究している学生。シンガポール女性研究と活動組織ＡＷＡＲＥの創立メンバー。シンガポールとマレーシアの女性についての著書がある。主な関心は女性と開発の問題。

《インドネシア》

イマ・Ｍ・マルダーニ (Imma M. Mardani)

ＡＰＨＤ（Asian Partnership for Human Development）
ＡＰＨＤは21のカトリックの開発共同関係機関の一つ。主な目的は人びとが責任を持つ開発であり、貧しく抑圧された人びとが主導権を持つことを最優先する。

シタ・アリプルナミ (Sita Aripurnami)

カリアナミトラ女性コミュニケーションと情報センター
当センターは女性の立場からインドネシア社会の女性問題をとらえ、分析する。

〈主な関心〉
女性労働、女性と環境問題。

《フィリピン》

ナンシー・サブグ (Nancy T. Sabug)

ガブリエラ（Gabriela）

マリア・エリー・マエストロ (Maria Elie Maestro)

バティス・センター(Batis Center)
当センターは1987年に開設されたフィリピン出稼ぎ女性のための組織。

ウェニロー・プラデル (Wenilou D.Pradel)

カトリック青年労働者連盟

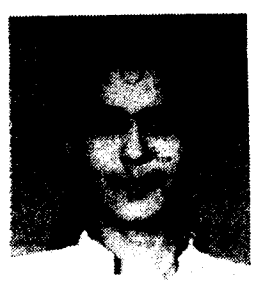
《インド》

アム・アブラハム (Ammu Abraham)

女性センター

〈略歴〉
女性センター創立メンバー。書記。当センターは家庭内暴力の問題を社会に知らせたり抑圧されている女性を支援するなどの活動をしている。「女性ニュース」の編集者でインド及び外国で女性問題についての記事を多く書いている。

〈主な関心〉
女性への暴力、新しい再生産技術、家庭法、女性と雇用など。



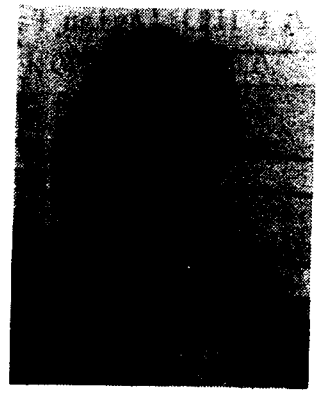
アリダ・ダ・ロサ (Alida da Rosa)

〈主な関心〉
文化と環境学、女性問題。禁止薬物に関する問題について研究中。

カムラ・バシン (Kamla Bhasin)

ＦＡＯ（飢えからの自由キャンペーン）、女性問題センター、

太平洋アジア女性フォーラム



〈略歴〉

数年前から草の根の運動をし、1976年以降アジアの地域レベルのＮＧＯで働いている。

〈主な関心〉

子どもや女性についての歌を書き、参加式の訓練プログラムに関心がある。開発・環境・フェミニズム。市民運動に関わる。

《スリランカ》

ネルン・グラセケラ(Nelun Gunasekera)

ＣＣＡ（アジアキリスト教協議会）、青年プログラム主事

ニマルカ・フェルナンド(Nimalka Fernando)、在マレーシア

ＡＰＷＬＤ

《バングラデシュ》

ファリダ・アクター(Farida Akhter)

ＵＢＩＮＩＧ (Policy Research for Development Alternative)

《パキスタン》

ニガット・サイド・カーン (Nigat Said Khan)

ＳＩＭＯＲＧＨ

《オーストラリア》

ウェンディー・プーサード(Wendy Poussard)

国際女性開発機構

〈略歴〉

国際女性開発機構の創立メンバーの一人で10年余りオーストラリアの開発と正義のグループで働いている。地域に根ざした組織で種々な発展的プロジェクトを進展させるため多くの国の女性グループと協力している。

〈主な関心〉

女性とＯＤＡ、援助の連帯のネットワーク。

ウェンディ・アン・スミス (Wendy Anne Smith)

マレーシア国立大学（人類社会学）

〈略歴〉

日本の大学院で学び、アジア諸国で日本についての研究をしている。1983年よりマレー　シアに在住、女性労働者、日本

とマレーシアの賃金や生活水準の比較研究をしている。
〈主な関心〉
マレーシアの日本の多国籍企業の関係や日本や東南アジアの
企業で働く女性。

《グアテマラ》
ペトローナ・ライネス(Petrona Laynez)
先住民会議参照。

《西ドイツ》
イルセ・レンツ (Ilse Lenz)
ミノテス大学女性学研究。　長年東アジアの女性の研究、特に工業化における女性労働
について関心がある。

労働者会議

《香港》

アニー・ルック (ANNIE LUK FUNG NBOR、陸鳳娥)　女性
香港キリスト教工業委員会教育プログラム担当者、香港労働組合教育センター教育担当者

ラン・キン・チョン (LEUNG KING-CHUN、梁景銓)　男性
香港社会工作者組合オルグ、労使関係推進会組織幹事

《台湾》

リュー・ファン・ピン (LIU FANG-PING、劉芳萍)　女性
台湾労働人権協会事務局員

ライ・ミン・リー (LAI MING-LIEH、頼明烈)　男性
台湾労働人権協会事務局長
その他、１－２の参加の申込あり。

《韓国》
２－３名の参加予定。

《フィリピン》
KMU（五月一日運動、フィリピン左派系最大の労働運動連合）から２－３名参加の予定。

《インドネシア》

ダヌー・ルジオノ (DANU RUDIONO) 男性
スラバヤ社会問題・法律扶助協会スタッフ

アリ・スナリジャティ (ARI SUNARIJATI) 女性

ファウジー・アブドゥーラ (FAUZI ABDULLAH) 男性
ＡＣＦＯＤ執行委員、ジャカルタ法律扶助協会役員

《マレーシア》
２名参加予定。

《タイ》
ソムサック・ブンガウェナパノン (SONGSAK BOONGAWENAPANON) 男性
市民的自由のための組合（ＵＣＬ）

マリニー・ウォンパニッチ (MALINEE WONRGPANICHI)女性

《スリランカ》
アントン・マルカス (ANTON MARCUS) 男性
ＡＷＳＬ執行委員

スリヤラタ・アハンガマ (SRIYALATHA AHANGAMA) 女性
自由貿易地帯（繊維産業）で女性労働者のオルグに従事している。

エヌ・ラトナダサ (N.S.RATHNADASA) 男性
労組支部役員

《インド》
カイラッシュ・サテヤールテ (KAILASH SATIYARTHY) 男性
債務奴隷的労働者（ｂｏｎｄｅｄ　ｌａｂｏｒ）

ジータ・ラーマスワミ (GITA RAMASWAMI) 女性

《バングラデュ》
アユブール・ラーマン (AYUBUR RAHMAN) 男性
バングラデシュ全国労働者連盟書記長

シャルナーラタ・ラキット (SHARNALATHA RAKHIT) 女性
繊維産業労働者

《パキスタン》
２名参加予定。

《ニュージランド》
ロバート・リード (ROBERT REUID)男性
ＮＺバーマストン地区労書記

マキシン・ゴールドサック (MAXINE GOLDSACK) 女性
ＮＺ事務職員労組専従

《オーストラリア》
３名参加の予定。

《フィジー》
エマ・ドロウベシ (EMMA DRAUVESI) 女性
フィジー労働組合会議役員

《観察者》ＰＰ２１国際共催団体などから
ジャック・クランシー (JACK CLANCEY) 男性
香港民族発展服務中心 (CENTER FOR THE PROGRESS OF PEOPLES)

フランシス・タン (FRANCIS TAN) 男性
香港民族発展服務中心

スサイラージ・ヴェダムト (SUSAIRAJ VEDAMUTHO) 男性
キリスト教青年労働者連盟 (YOUNG CHRISTIAN WORKERS)

サミードライ・シナパン (SAMYDORAI SINAPAN) 男性
キリスト教青年労働者連盟

ステファン・ギガッツ (STEFAN GIGACZ) 男性

ウエニール・プラデル (WENILOU PRADEL) 女性
キリスト教青年労働者連盟

マリア・李吉順 (MARIA RHIE CHOL SOON) 女性
香港アジア女子労働者委員会 (COMMITLEE FOR ASIAN WOMEN)

ヒュー・ウイリアムソン (HUGH WILLIAMSON) 男性
英国国際労働調査

マイク・パーカー (MIKE PARKER) 男性
米国労働記録 (LABOR NOTES)

アロイシウス・ハンタラ (Aloysuis Hantara)

グレッグ・コイン (Greg Coyne)

ＯＤＡ調査運動報告会議

＜インドネシア＞

アリフ・ブディマン (Arief Budiman) 男性
クリステン・サティア・ワチャナ大学
（神奈川会議参照）

スゲン・セティアディ (Sugeng Setyadi) 男性
自立財団

＜フィリピン＞

エド・C・タデム (Ed C-Tadem) 男性
社会主義思想と行動の前進のための同盟
（神奈川会議参照）

マリア・コラソン・バチョン (Maria Corazon Baytion) 女性

マリア・コラソン・ガイテ (Maria Corazon Gaite) 女性
フィリピン大学

＜タイ＞

プラサート・チティウタナポン (Prasart Chittiwtanapong)
タマサート大学政治学部

ウィワチャイ・アッタコー (Wiwatchai Atthakor) 男性
国立開発行政研究所
（神奈川会議参照）

神奈川国際シンポジウム

《タイ》

スリチャイ・ワンガェーオ (Srichai Wungaeo) 男性、40才

チュラロンコン大学助教授、専門は農村社会学

＜略歴＞1949 北部タイのランプーン県に生まれる
1971 チュラロンコン大学博士課程卒業
1971-1978 日本留学
1979 チュラロンコン大学助教授として現在にいたる
1988-1989 法政大学法学部に１年間客員教授として来日、「国際化と出稼ぎ労働者ータイからの出稼ぎ労働者を中心に」などの調査プロジェクトに取り組む

＜専門または主な関心＞

１．もうひとつの“発展”（民衆の自立のための発展）の理論と実践
２．“アジア・太平洋時代”における民衆と民衆の関係づくりとその可能性

＜参考資料＞

「同時代を生きるものとして出合うために」（『世界から』33号アジア太平洋資料センター発行収録）

トンバイ・トンパオ (Thongbai Thongpao) 男性

トンバイ・トンパオ法律事務所主宰

＜略歴＞

東北タイのマハーサラカム県に生まれる。タマサート大学法律学科卒業。

1958-66 政治的活動のために獄中に
1966 釈放後トンバイ・トンパオ法律事務所を設立、貧しい者、抑圧された者の側に立つ人権弁護士となる。ジャーナリスト、作家としても活躍し、タイ作家協会の代表であった時期もある。
1984 マグサイサイ賞を受賞
1986-88 アジア人権地域委員会（REGIONAL COUNCIL ON HUMAN RIGHTS FOR ASIA ）代表
現在は同委員会の運営委員。タイ新聞協会代表。タイ全国労働者会議（ＬＣＴ）、タイ労働組合連合（ＴＴＵＣ）、タイジャーナリスト連合の法律顧問

＜専門または主な関心＞

貧しく抑圧された人々（特に農民、労働者、都市貧困層）の側に立つ。現在農民、労働者、学生に法律に関する学習プロジェクトを推進。国連人権憲章及び市民的権利をすべてのプロジェクトで強調している。

ウィワチャイ・アッタコー (Wivachai Attakor) 男性

国立開発行政研究所（NATIONAL INSTITUTE OF DEVELOPMENT ADMINISTATION,NIDA)

＜略歴＞

1983年以来ＮＩＤＡに関わる
ＮＩＤＡは、経済学、企業経営、社会開発など様々な分野にわたる教育機関
ウィワチャイ氏は、PP21ＯＤＡ国際共同調査のタイ側パートナー

ワッチャレヤ・トサングワン (Vatchareya Thosanguan) 女性

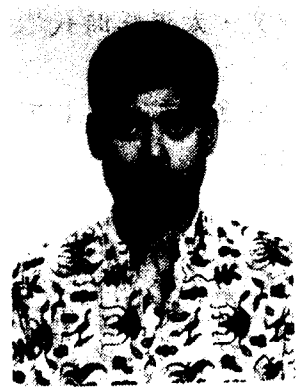
タマサート大学

アマラ・ポンサピッチ (Amara Ponsapich) 女性

チュラロコン大学社会研究所
（女性会議参照）

《マレーシア》

ジョモ・K・スンダラム (Jomo K.Sundaram) 男性



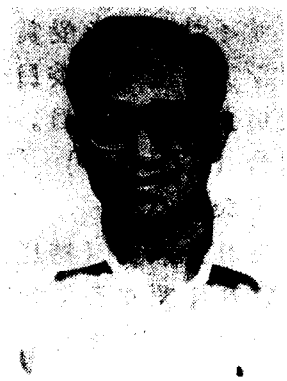
ＩＮＳＡＮ (INSTITUTE OF SOCIAL ANAlYSIS)
社会分析研究所代表
＜略歴＞
1978 ＩＮＳＡＮ設立

1979-1987 マレーシア社会科学協会副代表
＜専門または主な関心＞
経済政策、労働、帝国主義

メアリー・チン (Mary Chin) 女性

女性開発コレクティブ (WOMAN DEVELOPMENT COLLECTIVE)
（女性会議参照）

サイード・フサイン・アリ (Said Husin Ali) 男性



マラヤ大学。マレーシア人民社会党（ＰＳＲＭ）
＜略歴＞
1936 ジョホールに生まれる
1974-1980 国内治安法(ISA) により裁判なしで拘留現在はマラヤ大学人類学、社会学の教授、マレーシア人民社会党渉外部長
＜著書・論文＞
「バガンの社会階層分析」「マレイー問題の将来」
「ケランタンの貧困と土地問題」
＜専門または主な関心＞
政治、社会学、農民と民族問題。マレーシア人民社会党は非常に小さな組織であるが、党員は主に労働者、農民、知識人その他の階層からなる。ＰＳＲＭは社会党であるが、

同時に、進歩的な民族主義の流れもくんでいる。ＰＳＲＭは、長い間国家権力の圧力によって弾圧されてきた。

《フィリピン》

エドアルド・C・タデム (Eduardo C.Tadem) 男性

BUKLURAN SA IKAUUNLAD UG SOSYALISTANG ISIP AT GAWA（ＢＩＳＩＧ＝UNION FOR THE ADVANCEMENT OF SOCIALIST THOUGHT AND ACTION社会主義思想と行動の前進のための同盟）

＜略歴＞

フィリピン大学開発研究助教授、ＢＩＳＩＧ政治委員、ＡＲＥＮＡ（新しいオルタナティブのためのアジア地域交流会議）役員

＜専門または主な関心＞

１．土地改革問題についての研究・提言
２．政府開発援助（ＯＤＡ）研究ともうひとつの援助戦略
３．ＰＰ２１ＯＤＡ国際共同調査フィリピン側パートナー

ＢＩＳＩＧは、フィリピンの社会主義者のグループ又は個人による運動体で、1986年３月に設立。議長はランドルフ　Ｓ．ダビッド。フィリピンの歴史と特徴的な社会条件に基づいた独自の社会主義の道を追求する。

ホラシオ・R・モラレス・JR

(Horacio R.Morales,JR)　男性、1943年生

ＰＲＲＭ(PHILIPPINE RURAL RECONSTRUCTION MOVEMENTフィリピン農村復興運動）代表

＜略歴＞

マルコス政権下獄中にあり、１９８６年２月政変後釈放される。現在ＰＲＲＭの代表の他、フィリピン協同基金代表、農村開発基金代表、フィリピン政治犯救援組織(ＴＦＤＰ)顧問、大衆民主主義研究所(INSTITUTE FOR POPULAR DEMOCRACY ）顧問を務める。89年６月来日。フィリピン援助計画（多国間援助構想）に反対し、日本のＯＤＡのあり方を問うため各地でアピール。

＜専門または主な関心＞

１．フィリピンとアジアにおける日本の外交政策、ＯＤＡと経済進出
２．フィリピン、アジア・太平洋における日米関係とその影響
３．日本、フィリピンの社会運動の現状と国際連帯運動のあり方について
４．民衆が力をつけることと、民衆によるオルタナティブな経済・政治戦略
５．人権と民主化、自立した発展と環境問題。軍事同盟、外国の軍事基地と核の脅威

《インドネシア》

アリフ・ブディマン (Arief Budiman) 男性、1941年生

サトヤ・ワカナクリスチャン大学

＜略歴＞

大学ではとくに開発問題について講義。インドネシアの新聞・雑誌等に時には海外の雑誌にも投稿している。１９８０年米国ハーバード大学で社会学の博士号をとる。

＜専門または主な関心＞

１．第三世界における開発と政治経済

２．女性解放運動

スゲン・セティアディ (Sugeng Setyadi) 男性

YAYASAN MANDIRI （自立財団） （ＯＤＡ調査運動報告会議参照）

《インド》（在ネパール）

ジャヤンタ・バンジョパディアイ (Jayanta Bandyopadhyay) 男性

INTERNATIONAL CENTER FOR INTEGRATED MOUNTAIN DEVELOPMENT（国際統合山地開発センター）

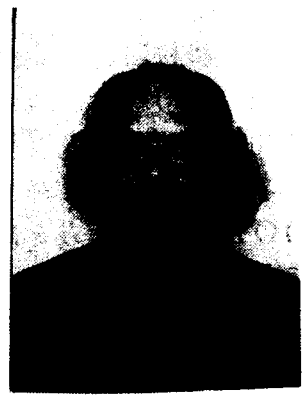
＜略歴＞

現在はネパールに住み、ヒマラヤ山脈の環境問題に取り組む。特にヒマラヤの開発で生活を追われるインド国境側の村民の被害をつぶさに撮ったドキュメンタリー映画は、ユネスコの手で世界各国に送られている。

《オーストラリア》

ピーター・D・ジョーンズ (Peter D.Jones) 男性

WAR RESISTERS'LEAGUE INTERNATIONAL（世界戦争抵抗者同盟）副議長、非核独立太平洋運動委員会、オーストラリアクウェーカー平和委員会



＜略歴＞

1986年以来、西オーストラリアの核軍縮のための活動に従事、1958以来、正義と平和運動に積極的に関わり、1976年からは、非核独立太平洋運動に参加している。太平洋　地域は広範にカバーする。

＜専門または主な関心＞

アジア太平洋地域の軍事化、反核運動、人権問題、経済、環境、解放と独立のための闘争

ウェンディー・プサード (Wendy Poussard)　女性

国際女性開発機関 (INTERNATIONAL WOMEN'S DEVELOPMENT AGENCY)

≪アオテアロア（ニュージーランド）≫

スー・ライト(Sue Wright)　女性

核戦争に反対する国際物理学者会議
オークランド大学のニュージーランド平和研究センター所属。

≪台湾≫

チェン・イン・ジェン(陳映真)　男性　52歳

『人間』雑誌発行人
　当雑誌は民衆の立場から台湾の諸問題をルポルタージュ・写真でとりあげる。

〈略歴〉

1968年親毛沢東活動の容疑で逮捕され禁固10年の判決。1975年釈放。約20年にわたり作家活動。

≪韓国≫

ソ・ジンオク (Sur Jin-ok)　女性

KOREA ANTI-POLLUTION MOVEMENT ASSOCIATION
（韓国反公害運動協会）

＜略歴＞

1979　地域社会運動に参加
1983　クリスチャンアカデミーで女性の教育プログラム担当
1986　反公害運動市民会議代表
1988　反公害運動協会協同議長のひとりになる。

その他反核、平和運動、女性運動の代表的指導者として活躍。

チャン・ユンジェ (Chang Yoon Jae)　男性

CCA－YOUTH (YOUTH DEPARTMENT OF CHRISTIAN CONFERENCE OF ASIA　アジアキリスト教協議会青年部)
企画助手

＜略歴＞

1985-1988 INTERNATIONAL COOPERATION COMMITTEE IN ECUMENICAL YOUTH COUNCIL IN KOREA代表
1989　CCA-YOUTH　(PP21共催団体）の企画助手

サミュエル・リー (Samuel Lee)　男性

ＡＲＥＮＡ、キリスト教社会問題研究院 (Christian Institute of Social Studies)

＜主な関心＞

批判的な社会科学、オールタナティブな発展のパラダイム、民衆運動

《アメリカ》

ヴァレリー・ヘイノネン (Valerie Heinonen)　女性

企業責任に関する宗教者センター
(INTERFAITH CENTER ON CORPORATE RESPONSIBILITY)

＜略歴＞

ＩＣＣＲ軍事化反対プログラム部長、国連ＮＧＯ軍縮委員会へのＩＣＣＲ代表

＜専門または主な関心＞

軍拡競争をあおる企業の責任、軍需生産、武器輸出問題、原子力・化学兵器生産を推進している政府のあり方。

ジョセフ・ガーソン (Joseph Gerson)　男性

アメリカン・フレンズ・サービス・コミティー（ＡＦＳＣ）クウェーカーの教えに基づき非暴力の正義と平和のための活動を行なっている。ＡＦＳＣは1947年にノーベル平和賞受賞。

＜略歴＞

ＡＦＳＣのニューイングランド地方事務所で平和教育に携わる。在外米軍基地についての本を編集、とくに在日米軍基地の章を執筆。

＜専門または主な関心＞

変化する世界秩序が米国の正義と平和の運動に及ぼす影響。米軍基地の影響、米日の同盟と競争

ジョセフ・コリンズ (Joseph Collins) 男性

食糧・開発問題政策研究所 (Institute for Food and Development Policy)

＜略歴＞

世界的に有名になった「フード・ファースト」の著者、その他食糧問題を扱った数多くの著作を出している。1970-75、リチャード・バーネットと共に食料・開発問題政策研究所で研究にたずさわり、「Global Reach :The Power of the Multinational」の著者。

《ニカラグア》

ハビエル・ゴロスティアーガ (Xabier Gorostiaga)

地域経済社会研究センター (Regional Center for Economic Research) 所長

＜略歴＞

1979～81年ニカラグア国民計画長官、パナマ運河協定交渉に際してパナマ側顧問をつとめる。パナマ社会研究行動センターの設立所長でもあった。

アジア太平洋消費者会議（8／18～21，大宮）

《韓国》

リー・ソンオク (Lee Song-ok)

韓国公害追放運動連合（korea Anti-Pollution Movement Associastion）
1970～1975韓国女性協会連合、1986年より現在の活動。

ソ・ジンオク (Sur Jin-ok)

韓国公害追放運動協会（Korea Anti-Pollution Movement Association）
（神奈川会議参照）

ソン・ボキュン (Song Bo-Kyung)

ソウル女子大学教授
韓国消費者保護市民連合(Citizens' Alliance for Consumer Protection of Korea)
危険な医療品、有害な薬剤、安全でない食品、多国籍企業貿易などに関する活動

キム・ジンオク (Kim Jin-ok)

韓国消費者保護市民連合（Citizens' Alliance for Consumer Protection of Korea）
KBS ラジオによる消費者教育を行なう。社会学。

《フィリピン》

ジュリア・アマルゴ (Julia A.Amargo)

フィリピン消費者運動（Philippno Consumers movement Inc.）
ＩＯＣＵ名誉顧問。多国籍企業問題を告発し続ける。

ジャニタ・ドロマル・パニアモガン (Juanita Doromal Paniamogan)

キリスト教消費者運動（Church-Based Consumer Association）
10年前より、ミンダナオにて都市下層生活者、主婦、小売り業者を集めて生協活動を開始。現在教会を足がかりに、低所得者層の消費者保護を目標として福祉活動を展開。

ピラール・カンダ・ブラーガ (Pilar Kanda Braga)

ダバオ消費者グループ(Konsumo Dabaw)
反ジャンクフードキャンペーン、母乳育児推進、薬品問題などに取り組む。地域教育開発に関する調査活動。ジャーナリストでもある。

クリスチナ・ガエルラン・ブガヨン (MA Christina Gaerlan-Bugayong)

消費者保護市民連合 (Citizens' Alliance for Consumer Protection)
1985年まで大学で英文学を教える。現在ＣＡＣＰ専従。

《タイ》

タウィー・カンジャナプー (Thawee Kanjanapoo)

タイ消費者自主グループ (Voluntary Group for Consumers of Thailand)
消費者の権利と利益を守ることを目的に情報と知識の伝達、調査・研究（粉ミルクの流通規制、農薬の規制等）、教育活動（母乳育児、農薬、化学肥料について、消費者の権利について）などを行なう。

ティラポン・リンパナノン (Tirapon Limpananon)

医療研究グループ代表。薬学教授。

《インドネシア》

エルウィナ・ヴィダーウィ (Eruina Widardi)

インドネシア環境フォーラム（ＷＡＬＨＩ）
環境保護研究、環境問題キャンペーン、キャンペーン運動の組織化などに取り組む。
会議提出報告 *A Care Study on Japanese Company in Jakarta*

ウィジャナルカ・E・S (Widjanarka E.S.)

農薬行動ネットワーク・インドネシア (PAN Indonesia)
農薬問題に取り組む。会議提出報告 *Violation FAO Code of Conduct by Japanese Pesticide Company*

ロエム・トパティマサン (Roem Topatimasang)

インドネシア消費者協会 (Indonesia Consumers Institution)

《マレーシア》

ロムダス・ティカダス (Romdass Tikadass)
弁護士。ビシャン・シン氏のマレーシアにおける味の素問題ケース担当。

《インド》

D. N. サラフ (D.N.Saraf)
消費者教育研究協会 (Consumer Education and Research Society)
大学教授

《バングラデシュ》

Z・チョウドフルグ (Z.Chowdhurg)
人民保健センター (Peoples' Health Center)
医者。

《オーストラリア》

ジョン・ウッド (John Wood)
オーストラリア連邦消費者局

《ニュージーランド》

ロバート・クック (Robert Cook)
国際開発・教育・行動センター (Center for International Development, Education & Action)

《フィジー》

J・B・ナイサラ (J.B.Naisara)
フィジー消費者会議 (Consumer Council of Fiji)

愛知会議

≪インドネシア≫

フェリックス N・スギルタラジュ (Flix N-Sugirtharaj) 男性
貧民連合事務局

ファウジ・アブドゥラー (Fauzi Abdullah)
ＡＣＦＯＤ
（労働者会議参照）

ダヌー・ルディオノ (Danu Rudiono)
自動車労働者

S．J．プラブー (S.J.Prabhu) 男性
演劇運動のプロモータ、解放歌作詞家

ＡＣＦＯＤ総会

≪コーディネター≫

アブダス・サブール (Abdus Sabur)

≪タイ≫

スラク・シワラク (Sulak Siwarak) 男性

ルアン・スークサワディ (Ruang Sooksawasdi) 男性
農民運動

アンポーン・スガンダヴァニ (Amporn Sugandhavanij) 女性
漁業問題研究者

≪バングラデシュ≫

マジッド・マリク (Majid Malik) 男性

カシム・ミア (Kashem Miah) 男性

《ネパール》

ロビン・シン(Robin Singh) 男性

スシル・ピャクラル(Sushil Pyakural) 男性

《インドネシア》

ハビブ・チルジン(Habib Chirzin) 男性

スリ・クシュニアティ(Sri Kusyuniati) 女性

《インド》

ラメシュ・グプタ(Ramesh Gupta) 男性

G. B. トーマス(G.B.Thomas) 男性

《アオテアロア《ニュージーランド》》

ヒネ・ウィランギ(Hinewirangi) 女性

マオリ　女性問題。マオリ文化の継承。

ロバート・レイド(Robert Reid) 男性

ジョン・カーノー (John Curnow) 男性

《スリランカ》

モニカ・ルワンパティラナ(Monica Ruwanpathirana) 女性

作家。女性問題。

カラヤナンダ(Kalayananda) 男性

《香港》

パトリック・ユー(Patric Yu) 男性

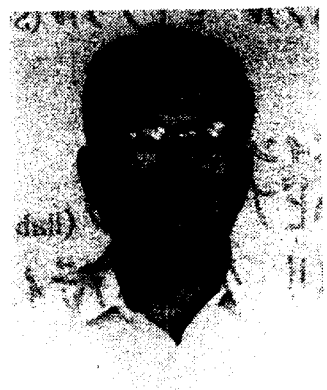
チャン・カン・ホン(Chan Kam Hong) 男性

この他、フィリピン、マレーシア、パキスタン、オーストラリア、パプア、ニューギニアから２名ずつ、さらに農民、漁民、労働者、女性、文化、宗教と解放プログラムからコーディネーターが参加予定。

水俣会議／アジアンフェスティバル

≪フィリピン≫

フリオ・ハビエル・ラバヤン(Bishop Jurio Xavier Labayen)



男性６３歳

「人間の発展」(Office For Human Developmennt=OHD)

＜略歴＞

ケソン市のインファンタ司教、アジア司教会議連絡会(Federation of Asia Bishops'Conferences)、ＯＨＤの開発教育顧問、アジア社会研究所理事長など

＜主な関心＞

神学、スピリチュアリティー、教育、社会学、人間の発展

司祭としての活動、自由・正義・平和

マイテット・ジョクノ (Maitet Diokno) 女性 (在香港)

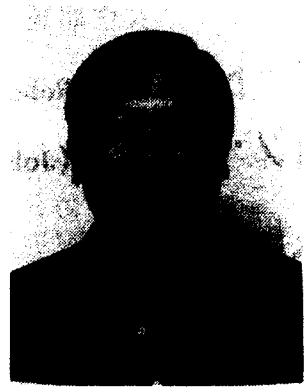
新しいオールタナティブのためのアジア地域交流会議

(ＡＲＥＮＡ：Asian Regional Exchange for New Alternative)

＜主な関心＞

オールタナティブ・パラダイム、民衆運動

エディセオ・E・カハリアン (Ediseo E,Caharian)



男性　４５歳　民衆の発展のためのサービス・センター(CPP:Center for the Progress of Peoples)

＜略歴＞

1974-79 フィリピン、カガヤン・デ・オロで「社会活動(Social Action)」理事長

1980-86 ＣＰＰ　プロジェクト・トレーニング主事

1987-　ＣＰＰ理事

＜主な関心＞

人権、アジア太平洋の軍事化、環境破壊、その他正義と平和に関わる問題

≪香港≫

アレックス・チョル・ハン・クン(Alex Chol hang keung) 男性

１９８５年ホンコン大学卒、ＡＲＥＮＡ

＜主な関心＞

開発問題と民衆の運動

キャンディ・レウン・チー・マン (Candy Leung Chi Man) 女性

ＡＲＥＮＡ

＜主な関心＞

第三世界の開発と環境

ビーナ・ソラス (Beena Soras) 女性

ＡＲＥＮＡ

＜主な関心＞

女性問題、オルタナティブなコミュニケーションとメディア、市民の自由と人権、環境・平和運動

チック・シュウ・ハ (Chick Siu Ha) 女性

ＡＲＥＮＡ

＜主な関心＞

女性問題、環境・技術問題、第三世界の発展問題

≪インド≫

K・モハンクマール (K・Mohankumar)

ケララ民衆科学運動 (KSSP:Kerala Satra Sahithya Parishad)

＜略歴＞

テレビ・プロデューサー、1978年以降ＫＳＳＰのオーディオ・ビジュアル部門の責任者　ユニオン・カーバイドの引き起こした悲劇に関連して水俣の問題を広く伝えた。

＜主な関心＞

環境・公害教育、健康その他の社会問題

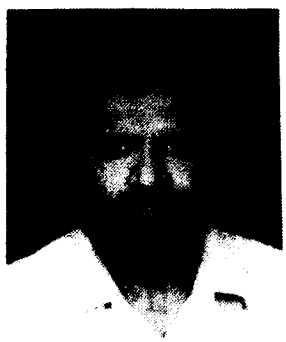
ハーシュ・セチ (Harsh Sethi)

ＡＲＥＮＡ　発展研究センター

＜主な関心＞

批判的な社会科学、オールタナティブなパラダイム、民衆運動

シッダルタ (Siddhartha) 男性



人民の発展のための全キリスト教統一研究所 (INODEP-ASIA)：パウロ・フレーレが設立所長。社会活動家のトレーニングに関わる組織。

＜略歴＞

マドラスで開発研究・行動センター (Center for Development Reseach and Action)を設立、ＩＮＯＤＥＰ（本部：パリ）の国際コーディネータをつとめた後、現在ＩＮＯＤＥＰ－ＡＳＩＡのインド全国コーディネータ

＜主な関心＞

文化とスピリチュアリィティー、社会活動上のトレーニング、社会活動のためのパラダイム、環境

アルン・スブラマニアン (Arun Subramanian) 男性
「Ｉｎｄｉａｎ　Ｐｏｓｔ」の記者、とくにボパールについてすぐれた文章を書いている。

サダナンド・メノン (Sadanand Menon) 男性
「Ｓｕｎｄａｙ　Ｏｂｓｅｒｖｅｒ」の記者

カルパナ・シャルマ (Kalpana sharma) 女性
「Ｔｉｍｅｓ　ｏｆ　Ｉｎｄｉａ」の記者

ジョー・トーマス (Joe Thomas) （ＩＭＣＳ、国際カトリック学生運動） インド、男性
ムリドゥーラ・B (Mridula B.) （　〃　） インド　女性
アンセルモ・リー・ソン・フン (Anselmo Lee Seong Hoon) （　〃　） 韓国　男性
シン・ミ・キョン (Shin Mi-Kyung) （　〃　） 韓国　女性
レオ・ペレーラ (Leo Perera) （　〃　） スリランカ　男性
ウィチャイ・パクタヴィ (Vichai Phackthavi) （　〃　） タイ　男性
ラチゴーン・チョンヴィサイ (Rattigorn Chongvisai) （　〃　） タイ　女性
ガブリエル・エッカ (Gabriel Ekka) （　〃　） インド　男性
モンスィー・トーマス (Moncy Thomas) （　〃　） インド　男性
アフタブ・A・ムグハル (Aftab A. Mughal) （　〃　） パキスタン　男性
ジーン・フランソワ・ラピエール (Jean Francois Lapierre) （　〃　）カナダ　男性
マリー・アン (Mary-Anne) （　〃　） フィリピン　女性

ニロ・オラシオン (Nilo Oracion)　男性、31才
ユージン・ロペス (Eugene Lopez)　男性、31才
イサオ・フジモト　男性、56才
ケン・ミーター (Ken Meter)　男性
アリー・ヴァン・デン・ブラント (Arie Van Den Brand)　男性
ジェラルド・ヴィーファー (Gerard Wieffer)　男性、38才

マシュー・コシー (Mathew Koshy)　男性
バムルン・ブンパニャ (Bamrung Bunpanya)　男性、43才
バントン・オンダム (Banthorn Ondam)　男性
トンプン・ハマジュム (Tongpun Hamajum)　女性、30才
ナトゥルディー・ナコーンヴァチャ (Nathrudee Nakornvacha)　女性、通訳
カヨタ・バムルン (Kayotha Bamrung)　男性、アジア学院（栃木県）に留学中
（以上農民会議より）
リゥ・ウェン・シュン (Liu Wen-hsiung, 劉文雄)　男性
ヘルミニア・ミニー・M・デガワン(Herminia Minnie M. Degawan)　女性
エディー・D・ダギタン(Eddie D. Daguitan)　男性
エド・バーンスティック(Ed Burnstick)　男性
ジュリオ・トレシエラ (Julio Tresierra)
グロリア・クランマー・ウェブスター(Gloria Cranmer Webster)　女性
ロペティ・セニトゥリ(Lopeti Senituli) 男性　34歳
フィロメーナ・ワハロア(Philomena Waharoa)　女性
キャシー・クム・シング(Kathy Kum-sing)　女性
モニカ・モーガン(Monica Morgan)　女性
マーティン・エドナ(Martin Edna)　男性
タビ・カリオン・パイ(Tavi Karion Pai)　男性
プジャプジャネ・アルフォンス(Pujapujane Alphonse)　男性
ペトローナ・ライネス(Petrona Laynez)　女性
ルシア・トバ (Lusiah Tobah)　女性　21歳
ジャニー・ラシムバン(Jannie Lasimbang)　女性、24歳、通訳
ジミー・メンドゥーサ(Jimmy Mendoza) 男性
チェン・メイジュ (陳美珠) 女性

（以上、先住民会議、沖縄会議より）
リウ・ファン・ピン (Liu Fang-ping)
ジェーン・スー (Jane Sue)
ロー・チェン・クイ (Loh Cheng Kooi)
イボンヌ・ダーリン (Yvonne Dahlin)
シュム・ユンシャン (Shum Yun Shan)
チョン・イン・スク(Jeoun In-suk)
アマラ・ポンサピッチ (Amara Pongsapich)
バンジョン・シリ(Banjong Sili)
メリー・チン (Mary Chin)
ルホン・ディン (Luhong Ding) 女性 40歳
ナンシー・サブグ (Nancy T. Sabug)
マリア・エリー・マエストロ (Maria Elie Maestro)
ウェニロー・プラデル (Wenilou D.Pradel)
アム・アブラハム (Ammu Abraham)
アリダ・ダ・ロサ (Alida da Rosa)
カムラ・バシン (Kamla Bhasin)
ネルン・グラセケラ(Nelun Gunasekera)
ニマルカ・フェルナンド(Nimalka Fernando)、在マレーシア
ファリダ・アクター(Farida Akhter)
ニガット・サイド・カーン (Nigat Said Khan)
ウェンディー・プーサード(Wendy Poussard)
アイリス・ロッシング (Iris Rossing) 女性
（以上、女性会議より）
フェリックス N・スギルタラジュ (Flix N·Sugirtharaj) 男性
ファウジ・アブドゥラー (Fauzi Abdullah)

ダヌー・ルディオノ (Danu Rudiono)
S. J. プラブー (S.J.Prabhu) 男性
(以上愛知会議より)

アニー・ルック (ANNIE LUK FUNG NBOR、陸鳳娘) 女性
ラン・キン・チョン (LEUNG KING-CHUN、梁景銓) 男性
ライ・ミン・リー (LAI MING-LIEH、賴明烈)
アリ・スナリジャティ (ARI SUNARIJATI) 女性
ソムサツク・ブンガウェナパノン (SONGSAK BOONGAWENAPANON) 男性
アントン・マルカス (ANTON MARCUS) 男性
スリヤラタ・アハンガマ (SRIYALATHA AHANGAMA) 女性
エヌ・ラトナダサ (N.S.RATHNADASA) 男性
カイラッシュ・サテヤールテ (KAILASH SATIYARTHY) 男性
ジーター・ラーワスワミ (GITA RAWASWAMI) 女性
アユブール・ラーマン (AYUBUR RAHMAN) 男性
シャルナーラタ・ラキット (SHARNALATHA RAKHIT) 女性
ロバート・リード (ROBERT REUID)男性
マキシン・ゴールドサック (MAXINE GOLDSACK) 女性
エマ・ドロウベシ (EMMA DRAUVESI) 女性
ジャック・クランシー (JACK CLANCEY) 男性
フランシス・タン (FRANCIS TAN) 男性
スサイラージ・ヴェダムト (SUSAIRAJ VEDAMUTHO) 男性
サミードライ・シナパン (SAMYDORAI SINAPAN) 男性
ステファン・ギガッツ (STEFAN GIGACZ) 男性
マリア・李吉順 (MARIA RHIE CHOL SOON) 女性
マイク・パーカー (MIKE PARKER) 男性

アロイシウス・ハンタラ (Aloysuis Hantara)
グレッグ・コイン (Greg Coyne)
ボブ・ムンツ (Bob Muntz)
マリー・パーディー (Maree Pardy)
ジョン・メイナード (John Maynard)
（以上、ＡＷＳＬより）

アリフ・ブディマン (Arief Budiman) 男性
スゲン・セティアディ (Sugeng Setyadi) 男性
プラサート・チティィタナポン (Prasart Chittiwtanapong)
（以上、ODA 調査会議より）

スリチャイ・ワンガエーオ (Srichai Wungaeo) 男性、４０才
トンバイ・トンパオ (Thongbai Thongpao) 男性
ワッチャレヤ・トサングワン (Vatchareya Thosanguan) 女性
ジョモ・K・スンダラム (Jomo K.Sundaram) 男性
サイード・フサイン・アリ (Said Husin Ali) 男性
エドアルド・C・タデム (Eduardo C.Tadem) 男性
ホラシオ・R・モラレス・ＪR (Horacio R.Morales,JR) 男性、1943年生
ジャヤンタ・バンジョパディアイ (Jayanta Bandyopadhyay) 男性
ピーター・D・ジョーンズ (Peter D.Jones) 男性
スー・ライト(Sue Wright) 女
チェン・イン・ジェン(陳映真) 男性 52歳
ソ・ジンオク (Sur Jin-ok) 女性
チャン・ユンジェ (Chang Yoon Jae) 男性
ヴァレリー・ヘイノネン (Valerie Heinonen) 女性
ジョセフ・ガーソン(Joseph Gerson) 男性
ハビエル・ゴロスティアーガ(Xabier Gorostiaga)
ジョセフ・コリンズ (Joseph Collins) 男性

ユルゲン・マイヤー (Jurgen Maier)　男性
サミュエル・リー (Samuel Lee)
（以上、神奈川会議より）
ルアン・スークサワディ (Ruang Sooksawasdi)　男性
アンポーン・スガンダヴァニ(Amporn Sugandhavanij)　女性
マジッド・マリク(Majid Malik)　男性
カシム・ミア(Kashem Miah) 男性
ロビン・シン(Robin Singh) 男性
スシル・ピャクラル(Sushil Pyakural) 男性
ハビブ・チルジン(Habib Chirzin) 男性
スリ・クシュニアティ(Sri Kusyuniati)　女性
ラメシュ・グプタ(Ramesh Gupta)　男性
G. B. トーマス(G.B.Thomas)　男性
ヒネ・ウィランギ(Hinewirangi) 女性
ロバート・レイド(Robert Reid) 男性
モニカ・ルワンパティラナ(Monica Ruwanpathirana)　女性
カラヤナンダ(Kalayananda)　男性
パトリック・ユー(Patric Yu) 男性
チャン・カン・ホン(Chan Kam Hong) 男性
スラク・シワラク (Sulak Sivaraksa)　男性
ジョン・カーノー (John Curnow)
アブダス・サブール (Abdus Sabur)
（以上、ACFOD 総会より）

リー・ソンオク (Lee Song-ok)
ソ・ジンオク (Sur Jin-ok)
キム・ジンオク (Kim Jin-ok)
ピラール・カンダ・ブラーガ (Pilar Kanda Braga)

アンワール・ファザール (Anwar Fazal)
ビシャン・シン(Bishan Singh)
エドゥイン・D・ウィダルディ(Edwin D. Widardi)
エピファニア・A・バロン(Epifania A. Bulaon)
ソン・ヴォキュン(Song Vokyung)
ラジェスワリ
（以上、消費者会議より）

文化キャラバン

ペタ-ブコス[PETA-BUGKOS] フィリピン

1968年、タガログ語文化運動の一環としてタガログ語現代演劇集団として設立。

1972年から教育演劇ワークショップを開始。マルコス政権の戒厳令下、さまざまな干渉や検閲に出会いながらも、新しい民衆演劇を模索し続けていた。たとえば、歴史上のナショナリスト・ヒーローにみたてた闘いの劇や人形や仮面を使った民話にもとづく寓話劇に民衆心理を織りこんだり、ドラ（詩）トラ（劇）といったシンプルでだれにでもわかる民衆演劇のモデルをつくりあげた。

ＰＥＴＡ（ペタ）とは「フィリピン教育演劇協会」の略称であるが、ここには演劇上演のための「カリナガン・アンサンブル」、演劇ワークショップのための「シタサ」、「調査」「出版」、全国ネットワークの「リンケージ・セクション」の５部門がある。裾の広いリンケージにはMTTL（メトロ・マニラ・ティーンズ・シアター・リーグ）といった高校生組織もある。

1981年、フィリピン国内ばかりでなくアジア全域にリンケージを広げ、日本の劇団黒テント等とともにATF （アジア演劇会議）を設立した。

1986年には日本、北米大陸、ヨーロッパでフィリピンの二月革命を描いた「パナタ・サ・カラヤン」を上演し、各地で演劇ワークショップを行なった。

同時にフィリピン国内では、演劇人ばかりでなく他の文化人とのリンケージづくりに取り組んだ。1988年には、BUGKOS（民衆芸術と文学のための全国組織）を設立。民衆文化の旗手として国内外で活躍している。

すでに、二冊の演劇ワークショップ・マニュアルを出版し、世界各地でPETA・メソッドのワークショップが行われている。彼らのスタイルは民衆の問題提起と表現をともに観客と試行することにある。目下、1991年にマニラで民衆文化祭を、他の文化組織とともに計画中である。

ホセ・アティエンサ（ジョジョ） JOSE S.ATIENZA,JR (Jojo) 男性　27歳

芸術演出家。PETAの農民演劇プログラムのスタッフ。俳優、ダンサーであると同時に振付家でありPETAの北米・ヨーロッパ公演でも主演している。

ベンジャミン・ヴィリヤリール（ジョンジョン） BENJAMIN VILLAREAL(Jonjon)男性　21歳

技術スタッフ。照明デザイナー、オペレーター、そしてもちろん俳優でもある。来日メンバーのうち最年少。

ホアキン・ヤブート（ジャック） JOAQUIN YABUT(Jack) 男性　28歳

俳優、ダンサーで武道と民族舞踊を専門とする。ワークショップ進行役として日本では馴染みが深い。

カレン・フリエサ KAREN HULLEZA 女性　23歳

フィリピン文化センターの文化促進部メンバー。音楽集団「パタタグ」を結成し参加。ストリート、公園、公会堂、学校、工場などで農民の、労働者の、軍事基地反対のコンサートに出演しつづける。

マ・グローリオサ・サントス（ベン）　MA.GLORIOSA SANTOS(Beng)　女性　24歳

TUKLAS、SINING（マニラ文化連合）、CAP（フィリピンを憂慮する芸術家）そしてBUGKOSといったフィリピンの文化活動家の団体設立のために働き、PETAでは各地域の文化グループ連合体の設立と組織化をコーディネートしている。

アントニオ・アパット（トニー）　ANTONIO APAT(Tony) 男性　31歳

MCPC（民衆文化のためのミンダナオ協議会）事務局長。BUGKOSの全国組織委員の一人でダバオの文化団体KAFIにも参加している。

マリオ・カスティーリョ（マヨン）　MARIO CASTILLO(Mayong) 男性　27歳

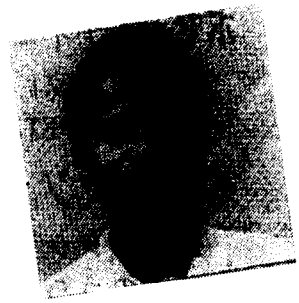
MCPCの事務局スタッフでKAFIにも参加している。ワークショップの進行役であり組織者でもある。ミンダナオ島のダバオで屋内外の移動上演を計画、実施した。

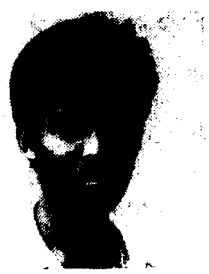
マリテス・マドリド・アルメーロ　MARITES MADRID ARMERO 女性

教会合唱メンバーからPETAの演劇ワークショップに参加の後、女優としても活動。テアトロ・SININGのメンバーである。ネグロスの子供たちのためのSongを創作、テレビドラマに脚本を書き出演もしている。

来日公演　*「キャプテン・ポポン」*

8/12　東京[LOOK ASIA WEEKEND]
8/15　名古屋
8/18　大阪
8/22　水俣
8/25　福岡[ASIAN FESTIVAL]





カラワン[CARAVAN]　タイ

1973年10月の学生革命後、スラチャイ・ジャンティマトーン、ウィラサク・スントンシーがバンドを結成して唄いはじめる。翌年モンコン・ウトック、トングラーン・タナーを迎えてカラワンを結成。タイ全国の大学、農村をまわって演奏し、タイ民主化闘争と「生きるための芸術運動」の象徴的存在となる。軍部や右翼に危険視されながらも若者を中心に圧倒的な人気を集めたが、1976年10月の反動クーデターで「森」に逃れることを余儀なくされ、以後タイ東北部、ラオスなど山岳地帯でちりぢりに過ごす。1982年バンコックで再結集を果たし、バンド活動を再開。1983年、カラワン４人が来日。水牛楽団、小室等らとコンサートツアーを行なった。スラチャイとモンコンは1984年三里塚農民グループの招きで再来日し「農村漁村キャラバン」で３カ月間日本をまわった経験もある。その後も海外公演多数。

本国では今まで十数枚のアルバムを発表し、その全てがベストセラーとなっているタイ・ポップス界の草分けである。

現在は新しいメンバーの参加を得て農、漁村そして都市スラムに出かけて演奏を続けると同時に、数万人規模のコンサートを成功させてもいる。

今回はフルバンドで来日し、ケーナなどの民族楽器の他エレキやシンセを使ったサウンドを披露する。タイで積み上げた16年間の活動の深みから、ニッポンへのさまざまなメッセージをたずさえている。

「ぼくらはこの世界のどこからであっても、正義を求める声を愛する。現代は当たり前の人々が声をあげる時代だ。彼ら自身のことば、彼ら自身の言語で、正義を愛する世界の仲間たちが聴いて考えてくれるように。信じ込ませようとさそいかけるどんな宣伝文句にも、ぼくらの生き方を左右されてはならない。ぼくらは不可避的に浸透した純農村地帯の出身だ。生まれついてであったのがこのような社会だったぼくらは保守主義者でもないし、エレクトロニクスの申し子でもない。ぼくらは僕ら自身であるにすぎない…機械が大きなうねり声をあげているこの時代に、水牛を駆ってすすむ第三世界の貧民キャラバンだ。」

来日メンバー

スラチャイ・ジャンティマトーン　SURACHAI JUNTIMATORN　41歳　ギター／ボーカル
トングラーン・タナー　THONGRAN THANA　38歳　ソロギター
モンコン・ウトック　MONGKHOL UTOG　38歳　ピン／バンブー・フルート／ギター
ポンテープ・クラドアンチャムナン　PONGTAPE KRADOANCHAMNARN　パーカッション
ステープ・パンアムパン　SUTEP PAN-AMPAN 34歳　ベース・ギター
ウィチアン・ブンヤソポン　WICHIAN BOOAYASOPHON 32歳　ドラム
ラピントラ・プティチャト　RAPINTRA PUTHICHAT　ギター
森　秀樹　MORI HIDEKI　P．A

来日公演　*「メイド・イン・ジャパン」*

8/10　AWSL東京集会
8/12　東京[LOOK ASIA WEEKEND]
8/18　大分・大山町
8/20　宮崎・綾町
8/21　水俣
8/26,27 福岡[ASIAN　FESTIVAL]
8/28　福岡・中間

遠くに近く、あっちこっち、どっちをむいてもニッポンだらけさ。
あの通り、この通り、どこもかしこもニッポン、ニッポン。
テレビにラジオ、時計もニッポン。
ニッポンなしではすごせない。　　（歌詞訳より）

チャンバワンバ CHUMBAWAMBA （疲れを知らないパンフレット書き）U．K．

1982年、イギリスのリーズで結成されたチャンバワンバ（「疲れを知らないパンフレット書き」）は、ミュージシャンであると同時に民衆として、生き、活動することを志としている。演奏活動だけでなくビラや小冊子を作ったり、デモに参加したりもする。

1984年、イギリス炭坑労働者のストライキの間、その家族のため資金集めの慈善公演ツアーをしたり、ピケット・ラインを訪問したり、街頭でのカンパ集めや集会を組織するのを手助けした。メンバーの中には、ストを行なった炭坑労働者の子供たちのために製作されたクリスマス・パントマイム・ショーに参加した者もいる。

1985～86年には、世界中の政治犯を救援するためのヨーロッパ公演旅行を行なった。現在も緑の運動から女性組織、自由主義的教育から反核キャンペーン、地域の労働ストや先住民の闘いを支援して逮捕された人々など、さまざまな組織のために慈善公演を行なっている。過去７年にチャンバワンバが参加したプロジェクトにはその他子供たちのための劇や音楽のワークショップ、街頭演劇などがあり、コンサートでも演劇を導入するなどメッセージを理解してもらうことに力点を置いている。目下のテーマは、人々が企業や国家の支配から力を取り戻す瞬間を表現したもの、破壊的な地球支配の現実を変革していこうという意志をこめたものなどである。

今までに３枚のＬＰ、２枚のシングルを自主製作しており、最初のシングル「革命」(REVOLUTION)、その後のＬＰ「飢えた子供の写真でレコードを売る」（PICTURES OF STARVING CHILDREN SELL RECORDS)は、既製の音楽業界に批判的一矢を放ったもの。1987年に発表したＬＰ「投票なんてどうでもいい」（NEVER MIND THE BALLOTS）は、イギリス議会選挙をもとにしており、いわゆる民主主義と自由の選択をシニカルに表現し、自分たちの生活と未来を取り戻すことへの展望を語った。

来日メンバー

アン・ホールデン ANNE HOLDEN 女性 28歳 ボーカル

アラン・ウェイリー ALLAN MARK WHALLEY男性 28歳 ギター、クラリネット、ボーカル

ジャコバ・ラーン JACOBA LAAN 女性 30歳 サウンドエンジニア

デビッド・マイルス DAVID MILLS 男性 22歳 ベース、トランペット、ボーカル

ルイーズ・ワッツ LOUISE WATTS 男性 27歳 ギター、ボーカル

ニジェール・ハンター NIGEL HUNTER 男性 27歳 ボーカル

ダンカン・ブルース DUNCAN BRUCE 男性 28歳 ボーカル

ダレン・ハマー DARREN JAMES HAMER 男性 22歳 ドラムス

来日公演

8/12 横浜

8/13 東京 [LOOK ASIA WEEKEND]

8/15 アジア女性フォーラム東京集会

他街頭など

バンガーラ・ダンス・シアター・オーストラリア (BANGARRA DANCE THEATRE AUSTRALIA)

バンガーラ・ダンス・シアターは、アボリジニ・アイランダー職能開発機構(AISDS)の公演部門として、1976年から運営されている。オーストラリア全州のみならず太平洋、ナイジェリア、カナダ、アメリカと海外でも活発に公演を続けている。昨年はヨーロッパをツアーし、メルボルンのスポレト・フェスティバルでは大好評を博した。

1989年、AISDS から分離独立し、それまでの呼称AIDT（アボリジニ・アイランダー・ダンス・シアター）を改め、文化と民族の起源を反映させるようバンガーラ・ダンス・シアター・オーストラリアとした。公演活動の他ワークショップ、ダンス教室等も行っている。

バンガーラとは、ニュー・サウス・ウェールズ州のWOIRADHARIの人々の言葉で「火を起こす」という意味である。

踊りについて

バンガーラのダンスは、２つのまったく異なった民族の伝統的舞踊と、現代のダンス・スタイルを統合したプログラムである。

伝統的なアボリジニの舞踏は、アボリジニの生活の起源と「ドリーミング」の神秘的な本質を表現している。踊り、音楽、身体の動き、デザインはみな長い歴史によるものである。人々の文化は数えきれぬ程のグループに分けられるが、すべての踊りは大地、空、海、生物などの自然に密接に関わっている。

一方、トレス海峡諸島の伝統舞踊は、誕生、結婚、祭り、旅人の帰還、愛する人の旅立ちなどに関わる祝い事を意味している。音楽もアボリジニのものと異なり、歌と太鼓、リズム楽器を用いる。

踊り手たちは５万年以上の文化的歴史に題材を求め、これらの要素を現代舞踏のエッセンスと融合させている。バンガーラは、純粋な伝統的舞踏から眩惑的な現代的振付にいたるすべての踊りを演じる。

バンガーラには、常にアボリジニとトレス海峡諸島の伝統的な踊りを指導する伝統社会のメンバーがいる。つまりバンガーラのダンスは、こうした踊りを継承する伝統社会の人々の願いを実現するように上演されており、彼らがバンガーラを通じて踊りを一般に披露することを許可しているのである。

来日公演

8/6 札幌

8/7-世界先住民会議参加-8/9二風谷

8/11東京[LOOK ASIA WEEKEND]

来日メンバー

シルビア・ブランコ SYLVIA BLANCO 女性（ダンサー）

クイーンズランド州、モスマン生まれ。1977年からダンスを学び1980年からAIDTに出演。ベルボア・ストリート・シアターのプロデューサー、オーガナイザーでもある。1984年にはアボリジニ海外留学基金でダンス留学。

リチャード・タロンガ RICHARD TALONGA 男性（ダンサー）

北クイーンズランド州、マッケイ生まれ。AISDS のダンス・スクールの創立時に学び、主な海外ツアーに参加している。
シドニー・ダンス・カンパニーとキネテック・エナジー・ダンス・カンパニーでも公演。

モニカ・スティーブンス MONICA STEVENS 女性（ダンサー）

北クイーンズランド州生まれ。1980年にAIDTに参加しダンスを研究。1983年からプロとなり翌年にはディプロマを取得。1988年には、香港のアジア太平洋ダンス会議と香港芸術祭に代表兼インストラクターとして参加。

ジャスミン・ガラッシュ JASMINE GULASH 女性（ダンサー）

ニュー・サウス・ウェールズ州の北岸、ムルニ・ウウンバ出身。AIDTには1984年に参加。テレビ番組の振付をしたり、メルボルンの現代舞踏グループダンス・ワークスに出演。

パーシー・ジャコニア PERCY JAKONIA 女性（ダンサー）

トレス海峡諸島の木曜島出身。1981年AISDS に加わり現代舞踏を学ぶ。伝統的なトレス海峡諸島の踊りに詳しい。AIDTには1984年に参加し、1986年にディプロマを取得。

ラリー・ヤプマ・グルウィニ LARRY YAPUMA GURRUWINI男性（ダンサー）

ノーザン・テリトリーのエルコ島出身。子どもの時からダンスを習いはじめた。1988年にAIDTプロフェッショナル・グループに参加。主な上演のすべてに参加し、デジャリドーのソロ奏者としても活躍。

ジャンセン・ウォーサム JENSEN WARSUN 男性（ダンサー）

トレス海峡諸島の木曜島出身。サバイ島人。子供の頃からアイランド・ダンスをはじめ、コミュニティのダンスリーダーとなった。

レイモンド・ソウヤー RAYMOND SAWYER 男性（芸術コーディネーター）

ニューヨーク生まれ。奨学金を受けてマーサ・グラハムスクール、アルビン・ニコラスなどトップアーチストに学び、パリの振付師ゲオフレ・ホルダー、ニューヨークの振付師ドナルド・マッケイルなどと仕事をし、みずからもダンス・カンパニーを設立。

ジム・マン JIM MANN 男性（舞台監督）

ビクトリア州の出身。1971年に「ヘアー」に参加以来、舞台監督補またＡＶスライド、フィルムのコーディネーターとして多くの舞台制作で活躍。1982年頃からAIDTでの仕事に専念、ライティング・デザイン、音響録音、地方コミュニテイでのプランニングなど制作・技術にかかわる広範な仕事をこなす。